

SAPPORO

札幌市版 レッドリスト 2016 ガイドブック



平成28年(2016年)3月

札幌市

C O N T E N T S

目次

はじめに	3
------	---

第1章 札幌市の自然	4
------------	---

第2章 札幌市版レッドリスト	8
1. カテゴリーの区分	8
2. 選定結果の概要	9
3. 札幌市版レッドリスト2016	11

第3章 希少種とその生息・生育環境を守るために	15
1. 札幌市	15
2. 市民	16
3. 活動団体	17
4. 事業者	18

第4章 札幌市の指標種	20
-------------	----

第5章 札幌市版レッドリストの検討経緯	23
---------------------	----

はじめに

地球上には、わかっているだけで175万種、推定では3,000万種ともいわれる生き物が互いにつながり合いながら生きています。この多種多様な生き物の存在とそのつながりを表すのが「生物多様性」という言葉です。

私たちの暮らしは、きれいな空気や水、食べ物や木材などの衣食住から、美しい景観や郷土料理などの豊かな文化、土砂崩れの防止などの生活の安全まで、生物多様性がもたらすさまざまな自然の恵みに支えられています。

ところが、現在、地球上では1年間に4万種と、かつてないスピードで生き物の絶滅が進んでおり、急速に失われつつある生物多様性は、温暖化と並ぶ深刻な地球環境問題となっています。自然状態をはるかに上回る速さで絶滅が進んでいる現代は、“第6の大量絶滅期”といわれており、この主な原因は、開発や乱獲、人工林の手入れ不足や農地の放置、外来種の持ち込み、地球温暖化など、私たち人間の活動にあるのです。

札幌市は、190万人の暮らす大都市と豊かな自然が調和した美しい街です。四季明瞭な気候の中で、南西部にはヒグマが生息する広大な山地が広がり、都心を流れる豊平川には毎年秋にサケがのぼるなど、貴重な自然の中にたくさんの生き物が暮らしています。しかし、今、ここ札幌でも、多くの生き物が絶滅の危機に直面しています。

今ある札幌の自然とそこに暮らす生き物を守り、次の世代に継承するためには、札幌市に生息・生育する動植物の現状を理解すること、そして、行政だけではなく、市民や活動団体、事業者など多様な主体が連携・協働して、保全に向けて取り組むことが必要です。

このため、札幌市では、絶滅のおそれのある野生生物の現状を明らかにするとともに、生物多様性の保全に対する理解と取組の促進を図ることを目的として、札幌市版レッドリストを作成し、希少な生き物を守るために私たちは何をすることができるのかについてわかりやすくまとめました。

札幌市では、このガイドブックを活用し、一人でも多くの方に札幌市に生息・生育する野生生物の現状について理解してもらうとともに、希少種や生息・生育環境の保全を促進していきます。

生物多様性さっぽろビジョン

カッコー先生コラム



札幌市では、生物多様性の保全のための指針として、平成25年3月に「生物多様性さっぽろビジョン」を策定しました。

生物多様性を守るためには、190万人を擁する一大消費都市でありながら豊かな自然が残っている札幌市の自然環境を保全するとともに、市民一人ひとりのライフスタイルが生物多様性に影響を与えていることを認識し、その行動を見直していくことが必要です。札幌市では、ビジョンに掲げる「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」の理念のもと、体系的・総合的な施策を進め、市民や活動団体、事業者などのあらゆる主体とともに、生物多様性の保全の取組を進めています。

【参考】生物多様性の保全(札幌市ホームページ)

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/>



生物多様性さっぽろビジョン

第1章 札幌市の自然

1. 地形・地質

札幌市は、北海道の地形・地質の境目となっている石狩平野の南西部に位置しています。市域面積は約1,121平方kmと広大で、南西に広がる山地から南東部の丘陵・台地、豊平川によって形成された扇状地、そして北部の低地へと連続した地形をなしています。標高の最も高い場所は南区定山溪にある余市岳の1,488m、最も低い場所は北区西茨戸の旧発寒川付近の1.6mと標高差も大きく、大小の河川、湖沼、渓谷、湿原などが見られ、地形的な変化に極めて富んでいます。

また、火山活動によって形成された山地や台地は火山岩や支笏軽石流からなり、扇状地は砂、小石、粘土の安定した地盤を形成し、北方の低地には泥炭地が広く分布しています。

2. 景観

明治期以降、計画的な開発により、豊平川扇状地を中心に市街地が発展してきた札幌市には、山地の原生的な自然環境から都市部の人為的な環境まで、多様な生態系が存在します。また、森林面積は71,206ha(平成25年度、北海道水産林務部)と、札幌市域の面積の6割以上を占めており、その大部分は南西部の山地に集中しています。

3. 気候

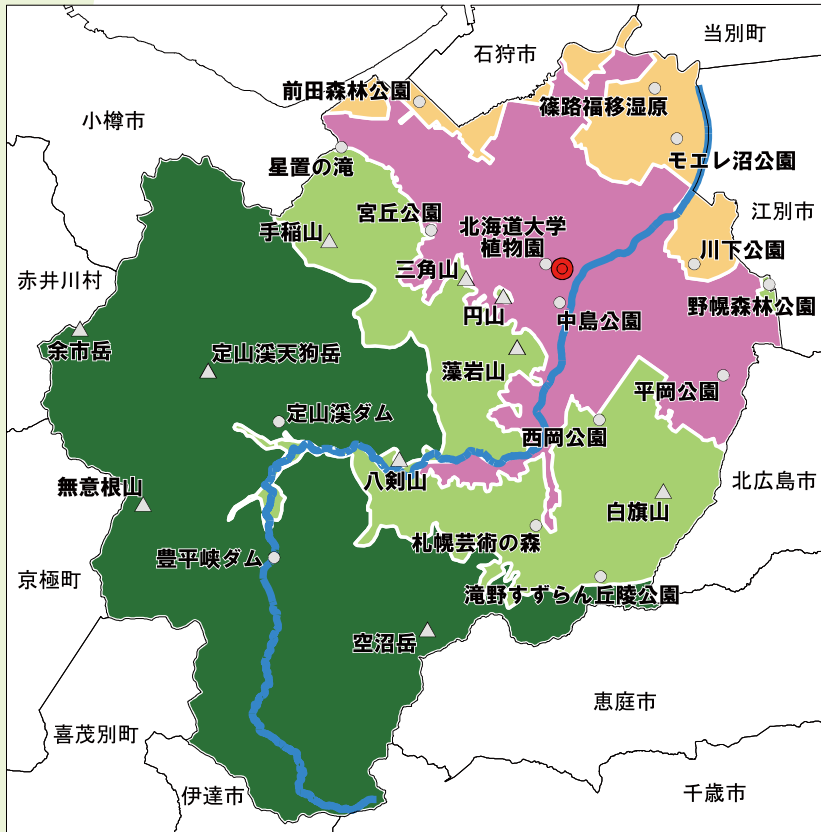
札幌市の気候は、日本海型気候で、夏はさわやかで、冬は積雪寒冷であることを特徴としており、はっきりとした季節の移り変わりを見ることができます。ひと冬の降雪量は約6mにもなり、人口190万人を超える大都市がこのような豪雪地域に存在するのは世界的に見てもまれです。

4. 動植物

札幌市では、これまでにおよそ6,000種の動植物が記録されています。多様で変化に富んだ地形・地質や、地理的に冷温帯と亜寒帯の間に位置し、北方系と南方系の生物分布の接点にあたること、南側の支笏洞爺国立公園を含む山地や中央部にある国の天然記念物に指定されている藻岩山・円山など、山地の多くが保安林、天然記念物などとして保護されていることなどが、札幌の多種多様な生物相を生み出しています。

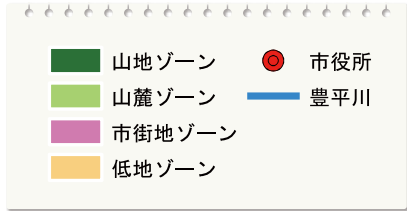


ランドサット8による札幌市全域の衛星画像
(平成27年7月12日撮影)



札幌市の生物多様性に係る4つのゾーン

札幌市の自然環境は、地勢や人間活動の影響に応じて、「山地ゾーン」、「山麓ゾーン」、「市街地ゾーン」及び「低地ゾーン」の4つのゾーンと、各ゾーンをつなぐ生態系にわけることができます。



山地ゾーン

南西部の山地が広がる地域。人間活動の影響が小さく、自然林や自然草原・湿原が残っています。保安林や自然公園など、大部分が法令により保護されています。

【主な生態系】 自然林、自然草原・湿原、湖沼、河川上流 など

【生息・生育する動植物】

ヒグマ、フクロウ、クマゲラ、エゾハルゼミ、キツリフネ など

【市内の場所】 空沼岳、無意根山、豊平峡ダム、豊平川上流 など



奥定山溪

山麓ゾーン

南西部山地の山麓部から南東部の丘陵・台地へとつながる地域。かつては森林伐採が行われてきましたが、現在はほとんど人の手が入らず、成長した二次林の多い半自然的な生態系となっています。

【主な生態系】 二次林、自然林、草地、池沼、河川上流 など

【生息・生育する動植物】

アカゲラ、キアゲハ、フクジュソウ、エンレイソウ など

【市内の場所】 藻岩山、円山、手稲山、札幌芸術の森、西岡公園、豊平川上流 など



札幌芸術の森周辺



市街地ゾーン

人口が集中し、人間活動による環境への影響が大きい地域。現在ではその多くが宅地や商業地となる一方で、市民の憩いの場や避難場所としての公園・緑地の整備が進められています。

【主な生態系】 市街地、公園・緑地、河川中流 など

【生息・生育する動植物】

オシドリ、アカゲラ、アブラゼミ、
オドリコンウ など

【市内の場所】 平岡公園、中島公園、北海道大学植物園、
豊平川中流 など



中島公園周辺

低地ゾーン

北部の畑や草地在比較的多く残っている地域。樹林地の多くは防風林、河畔林や公園で、植生の自然度は低いですが、かつての石狩湿原の名残の残る貴重な湿地もあります。水田や畑、草地は急速に減少しており、近年市内で最も風景が変わってしまった地域です。

【主な生態系】 畑、草地、湿地、河畔林、河川下流 など

【生息・生育する動植物】

カッコウ、オオジシキ、シオカラトンボ、ガマ など

【市内の場所】 モエレ沼公園、篠路福移湿原、豊平川下流 など



さとらんど・モエレ沼公園周辺

各ゾーンをつなぐ生態系

各ゾーンは河川や緑地につながり、相互に関わり合っています。特に山地から低地までの各ゾーンをつなぐ豊平川は、生活史に複数の環境が必要な生き物の重要な生息・生育基盤となっています。

【主な生態系】 河川、河畔林、各ゾーンを横断する緑地 など

【生息・生育する動植物】

カワセミ、スナヤツメ、シロザケ、サクラマス など

【市内の場所】 豊平川、新川、星置川、茨戸川 など



豊平川上流



豊平川中流



茨戸川下流

第2章 札幌市版レッドリスト

「レッドリスト」とは、絶滅の危険度を科学的・客観的に評価してまとめた絶滅のおそれのある野生生物のリストのことをいいます。国レベルのものは環境省が、都道府県レベルのものは北海道が作成しています。レッドリストは法的な規制を伴うものではありませんが、札幌市版レッドリストは札幌市が進める生物多様性の保全対策の基礎資料とするほか、環境影響評価や各種施策における保全対策に活用されるものです。また、広く公表することで、生物多様性の保全に対する意識の醸成を図るとともに、保全に向けた取組の促進を図っていきます。

1. カテゴリーの区分

札幌市版レッドリストのカテゴリーは、原則として環境省レッドリストに準じて設定しました。ただし、環境省の「絶滅」と「野生絶滅」に相当するカテゴリーを、「今見られない」という独自のカテゴリーにするとともに、北海道のカテゴリーを参考に「留意」のカテゴリーを設定しました。なお、札幌市自体の面積が限られていることから、「地域個体群」のカテゴリーは設定しませんでした。

札幌市版レッドリストのカテゴリーと概要

カテゴリー	概要	参考		
		環境省レッドリスト(2015)	北海道レッドリスト(2015)	北海道レッドデータブック(2001)
今見られない Extinct + Extinct in the Wild (EX+EW)	かつては生息・生育していたが、札幌市では現在は見られなくなり、野生での生息・生育の可能性がないと考えられる種	絶滅(EX) 野生絶滅(EW)	絶滅(Ex) 野生絶滅(Ew)	絶滅種(Ex) 野生絶滅種(Ew)
絶滅危惧 Threatened	絶滅危惧IA類 Critically Endangered(CR)	絶滅危惧IA類 (CR)	絶滅危惧IA類 (Cr)	絶滅危機種 (Cr)
	絶滅危惧IB類 Endangered(EN)	絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧IB類 (En)	絶滅危惧種 (En)
	絶滅危惧II類 Vulnerable(VU)	絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧II類 (Vu)	絶滅危急種 (Vu)
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (Nt)	希少種 (R)
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種	情報不足(DD)	情報不足(Dd)	—
留意 Noteworthy (N)	保護に留意すべき種	—	留意(N)	留意種(N)
—	—	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	絶滅のおそれのある地域個体群 (Lp)	地域個体群 (Lp)

※レッドデータブック：レッドリストに掲載された種について、生息状況や存続を脅かしている原因などを解説した書籍

2. 選定結果の概要

札幌市版レッドリストの掲載種は297種であり、内訳は「今見られない(EX+EW)」12種、「絶滅危惧IA類(CR)」15種、「絶滅危惧IB類(EN)」29種、「絶滅危惧II類(VU)」77種、「準絶滅危惧(NT)」122種、「情報不足(DD)」22種及び「留意(N)」20種となりました。

哺乳類

哺乳類では14種を選定しており、今見られない(EX+EW)にはオオカミ(亜種エゾオオカミ)とカワウソ(ニホンカワウソ北海道亜種)の2種を選定しました。クロテン(絶滅危惧IA類(CR))は、毛皮目的で本州から持ち込まれた国内外来種のニホンテンとの競合が脅威となっている可能性があり、札幌市内ではほとんど生息が確認されていません。シマリス(絶滅危惧II類(VU))は、かつて放逐された外来の亜種チョウセンシマリスとの交雑や競合により、在来の亜種エゾシマリスへの影響が懸念されています。また、キクガシラコウモリ(情報不足(DD))などコウモリ類は夜行性であることから生息情報が少なく、今後も情報を収集していく必要があると考えています。

鳥類

鳥類では33種を選定しました。タンチョウは、近年、札幌市近郊でまれに飛来記録がありますが、市内での繁殖は確認されていないため、今見られない(EX+EW)に選定しました。絶滅危惧IA類(CR)に選定したシマアオジは、繁殖のために北海道に渡来する夏鳥ですが、北海道全域で急減しており、札幌でもほとんど生息が確認されていません。全国的に、開発による河川敷の環境変化などにより草原性鳥類の減少が目立っており、チュウヒやアカモズは絶滅危惧IB類(EN)に、ウズラは絶滅危惧II類(VU)に選定しました。また、環境省のレッドリストでは掲載されていないアカショウビンは、近年市内での記録が極めて少ないことから準絶滅危惧(NT)に選定しました。このほか、ヨタカ(準絶滅危惧(NT))やオオコノハズク(情報不足(DD))などの夜行性の鳥類は生息情報が少ないことから、今後も情報を収集していく必要があると考えています。

札幌市版レッドリストのカテゴリー別選定種数一覧

分類群	今見られない (EX+EW)	絶滅危惧 IA類 (CR)	絶滅危惧 IB類 (EN)	絶滅危惧 II類 (VU)	準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	留意 (N)	合計
哺乳類	2	1	0	3	1	5	2	14
鳥類	2	1	3	6	11	6	4	33
両生類・爬虫類	0	0	0	0	1	1	0	2
淡水魚類・水生動物	0	1	2	3	4	0	2	12
昆虫類	5	4	12	17	64	9	2	113
植物	3	8	12	48	41	1	10	123
合計	12	15	29	77	122	22	20	297



両生類・爬虫類

両生類・爬虫類では2種を選定しました。準絶滅危惧(NT)に選定した両生類のエゾサンショウウオは、生息環境の悪化と外来種のアライグマによる捕食被害による影響が懸念されています。爬虫類のシロマダラは、夜行性で確認数が極めて少ないことから情報不足(DD)に選定しましたが、生息環境の減少が懸念されます。

淡水魚類・水生動物

淡水魚類・水生動物では12種を選定しました。札幌市内の石狩川水系で見られることが少なくなったイトウは、石狩川水系の放流魚やその再生産個体が確認されているほか、放流魚起源ではない個体の確認情報もあることから、絶滅危惧IA類(CR)に選定しました。準絶滅危惧(NT)に選定されたヤチウグイ、エゾホトケドジョウ、エゾトミヨは河川改修工事等の影響が懸念されています。水生動物では、絶滅危惧IB類(EN)にコガタカワシンジュガイを、絶滅危惧II類(VU)にカワシンジュガイとニホンザリガニを選定しました。

昆虫類

昆虫類では113種を選定しており、今見られない(EX+EW)にはミヤマカワトンボ、ナゴヤサナエ、オオシオカラトンボ、テングチョウ北海道亜種及びゴマダラチョウの5種を選定しました。近年の湿地の減少や植生の変化により、絶滅危惧IA類(CR)に選定したカラカネイトトンボ、マイコアカネ、絶滅危惧IB類(EN)に選定したババアメンボ、セスジアカガネオサムシ、キンイロネクイハムシ、ゴマシジミ東北・北海道亜種、ヒョウモンチョウ北日本亜種、マガリスジコヤガ、クシロモクメヨトウなど、湿地性昆虫の絶滅が危惧されています。

植物

植物では123種を選定しており、今見られない(EX+EW)にはタイツリオウギ、モメンヅル及びタニマスミレの3種を選定しました。絶滅危惧IA類(CR)に選定したジンヨウキスミレ、サクラソウモドキ、ホテイアツモリなどは、産地が局限され、盗掘等による絶滅が懸念されています。絶滅危惧IB類(EN)にはエゾタンポポなどを選定し、留意(N)には札幌の花であるスズランや、湿地性の植物であるヤチヤナギ、サワギキョウ、ノハナショウブ、ホロムイソグなどを選定しました。

3. 札幌市版レッドリスト2016

●哺乳類

※種名の()内の亜種が対象

科名	種名	環境省RL	北海道RD
今見られない(EX+EW)			
1 イヌ科	オオカミ(亜種エゾオオカミ)	EX	Ex
2 イタチ科	カワウソ(ニホンカワウソ北海道亜種)	EX	Ex
絶滅危惧IA類(CR)			
3 イタチ科	クロテン	NT	—
絶滅危惧II類(VU)			
4 ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	VU	R
5 リス科	シマリス(亜種チョウセンシマリスを除く)	DD	—
6 イタチ科	オコジョ	NT	Vu
準絶滅危惧(NT)			
7 クマ科	ヒグマ	LP	Lp
情報不足(DD)			
8 キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	—	—
9 ヒナコウモリ科	キタクビワコウモリ	—	—
10 ヒナコウモリ科	チチブコウモリ	—	R
11 ヒナコウモリ科	ニホンウサギコウモリ	—	—
12 ヒナコウモリ科	クロオアブラコウモリ	DD	R
留意(N)			
13 キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	—	—
14 ヒナコウモリ科	テングコウモリ	—	R

●鳥類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
今見られない(EX+EW)			
1 ツル科	タンチョウ	VU	En
2 フクロウ科	シマフクロウ	CR	Cr
絶滅危惧IA類(CR)			
3 ホオジロ科	シマアオジ	CR	R
絶滅危惧IB類(EN)			
4 タカ科	チュウヒ	EN	Vu
5 タカ科	クマタカ	EN	En
6 モズ科	アカモズ	EN	R
絶滅危惧II類(VU)			
7 キジ科	ウズラ	VU	R
8 カモ科	ヒシクイ	VU	R
9 タカ科	オジロワシ	VU	En
10 タカ科	オオワシ	VU	En
11 キツツキ科	クマガラ	VU	Vu
12 ハヤブサ科	ハヤブサ	VU	Vu
準絶滅危惧(NT)			
13 キジ科	エゾライチョウ	DD	R
14 カモ科	マガン	NT	R
15 カモ科	オシドリ	DD	R
16 ヨタカ科	ヨタカ	NT	R
17 シギ科	オオジシギ	NT	R
18 ミサゴ科	ミサゴ	NT	Vu

●鳥類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
準絶滅危惧(NT)			
19 タカ科	ハチクマ	NT	R
20 タカ科	ハイタカ	NT	Vu
21 タカ科	オオタカ	NT	Vu
22 カワセミ科	アカショウビン	—	R
23 センニュウ科	マキノセンニュウ	NT	—
情報不足(DD)			
24 シギ科	ヤマシギ	—	—
25 タカ科	ツミ	—	—
26 フクロウ科	オオコノハズク	—	—
27 フクロウ科	コノハズク	—	—
28 フクロウ科	アオバズク	—	—
29 フクロウ科	トラフズク	—	R
留意(N)			
30 キツツキ科	オオアカゲラ	—	N
31 ヒバリ科	ヒバリ	—	—
32 アトリ科	ギンザンマシコ	—	R
33 ホオジロ科	ホオアカ	—	—

●両生類・爬虫類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
準絶滅危惧(NT)			
1 サンショウウオ科	エゾサンショウウオ	DD	N/Lp
情報不足(DD)			
2 ナミヘビ科	シロマダラ	—	Dd

●淡水魚類・水生動物

※種名の()内は河川残留型の名称

科名	種名	環境省RL	北海道RD
絶滅危惧IA類(CR)			
1 サケ科	イトウ	EN	Cr
絶滅危惧IB類(EN)			
2 ヤツメウナギ科	カワヤツメ	VU	—
3 カワシンジュガイ科	コガタカワシンジュガイ	CR+EN	—
絶滅危惧II類(VU)			
4 サケ科	オショロコマ	VU	R
5 カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ	VU	—
6 ザリガニ科	ニホンザリガニ	VU	—
準絶滅危惧(NT)			
7 コイ科	ヤチウグイ	NT	—
8 ドジョウ科	エゾホトケドジョウ	EN	En
9 キュウリウオ科	イシカリワカサギ	NT	R
10 トゲウオ科	エソトミヨ	VU	R
留意(N)			
11 コイ科	マルタ	—	N
12 サケ科	サクラマス(ヤマメ)	NT	N

※環境省 RL：環境省レッドリスト2015

※北海道 RD：北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001

※北海道 RL：北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版(2015年)



ヒグマ：準絶滅危惧(NT)



チュウヒ：絶滅危惧IB類(EN)



イトウ：絶滅危惧IA類(CR)



●昆虫類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
今見られない(EX+EW)			
1 カワトンボ科	ミヤマカワトンボ	—	—
2 サナエトンボ科	ナゴヤサナエ	VU	—
3 トンボ科	オオシオカラトンボ	—	—
4 テングチョウ科	テングチョウ北海道亜種	—	Ex
5 タテハチョウ科	ゴマダラチョウ	—	Vu
絶滅危惧IA類(CR)			
6 イトトンボ科	カラカネイトトンボ	—	R
7 トンボ科	マイコアカネ	—	R
8 トンボ科	ヒメアカネ	—	R
9 コガネムシ科	ダイコクコガネ	VU	R
絶滅危惧IB類(EN)			
10 エゾトンボ科	ハネヒロエゾトンボ	VU	R
11 アメンボ科	ババアメンボ	NT	N
12 コオイムシ科	コオイムシ	NT	—
13 ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	VU	R
14 オサムシ科	セスジアカガネオサムシ	—	—
15 ハムシ科	キンイロネクイハムシ	NT	—
16 アゲハチョウ科	ウスバシロチョウ	—	—
17 シジミチョウ科	ゴマシジミ東北・北海道亜種	NT	N
18 タテハチョウ科	ヒョウモンチョウ北日本亜種	NT	N
19 ジャノメチョウ科	シロオビヒメヒカゲ札幌周辺亜種	NT	Cr
20 ヤガ科	マガリスジコヤガ	VU	—
21 ヤガ科	クシロモクメヨトウ	VU	—
絶滅危惧II類(VU)			
22 アオイトトンボ科	エゾアオイトトンボ	—	—
23 ヤンマ科	コシボソヤンマ	—	R
24 エゾトンボ科	コエゾトンボ	—	—
25 コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ	VU	R
26 ゲンゴロウ科	マルガタゲンゴロウ	VU	—
27 オサムシ科	セアカオサムシ	NT	—
28 カミキリムシ科	クロルリハナカミキリ	—	R
29 カミキリムシ科	カラフトヨツスジハナカミキリ	—	R
30 カミキリムシ科	ヒゲジロホソコバネカミキリ	—	R
31 カミキリムシ科	クロヒラタカミキリ	NT	—
32 カミキリムシ科	コトラカミキリ	NT	—
33 カミキリムシ科	キクスイカミキリ	—	R
34 セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	NT	N
35 シジミチョウ科	カバイロシジミ	NT	—
36 シジミチョウ科	リンゴシジミ	—	R
37 スズメガ科	ヒメスズメ	NT	—
38 ヤガ科	ホシヒメセダカモクメ	NT	—



エゾサンショウウオ：準絶滅危惧(NT)



カラカネイトトンボ：絶滅危惧 IA類(CR)



ジャコウカミキリ：準絶滅危惧(NT)

●昆虫類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
準絶滅危惧(NT)			
39 アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ	—	R
40 イトトンボ科	セスジイトトンボ	—	R
41 ヤンマ科	サラサヤンマ	—	R
42 サナエトンボ科	ホノサナエ	—	—
43 サナエトンボ科	コオニヤンマ	—	—
44 エゾトンボ科	カラカネトンボ	—	—
45 エゾトンボ科	オオヤマトンボ	—	—
46 エゾトンボ科	エゾコヤマトンボ	—	—
47 エゾトンボ科	モリトンボ	—	—
48 エゾトンボ科	エゾトンボ	—	—
49 トンボ科	カオジロトンボ	—	—
50 トンボ科	ムツアカネ	—	—
51 トンボ科	ヒメリスアカネ	—	R
52 アワフキムシ科	トドマツアワフキ	—	R
53 コオイムシ科	オオコオイムシ	—	R
54 ヒロバカゲロウ科	ブライヤーヒロバカゲロウ	—	R
55 ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ	NT	—
56 オサムシ科	コルリマルクビゴミムシ	—	R
57 オサムシ科	コヒメヒョウタンゴミムシ	—	R
58 オサムシ科	ウメヤルリミズギワゴミムシ	—	R
59 ガムシ科	エゾコガムシ	NT	N
60 ガムシ科	セスジダルマガムシ	—	R
61 エンマムシ科	キノコアカマルエンマムシ	—	R
62 エンマムシ科	ヒラタエンマムシ	—	R
63 マルトゲムシ科	エカシマルトゲムシ	—	R
64 マルトゲムシ科	カラフトマルトゲムシ	—	R
65 コメツキムシ科	シロウズベニコメツキ	—	R
66 ホタルモドキ科	ホソホタルモドキ	—	R
67 カミキリムシ科	ジャコウカミキリ	—	R
68 カミキリムシ科	エゾカミキリ	—	R
69 カタビロハムシ科	ムナキモモフトハムシ	—	R
70 ハムシ科	ミンハギハムシ	—	R
71 ヒゲナガゾウムシ科	シロヒゲナガゾウムシ	—	R
72 ヒゲナガゾウムシ科	オオマダラヒゲナガゾウムシ	—	R
73 ヒゲナガゾウムシ科	ツツケナガヒゲナガゾウムシ	—	R
74 ヒゲナガゾウムシ科	ナガアシヒゲナガゾウムシ	—	R
75 ヒゲナガゾウムシ科	シロマダラネフトヒゲナガゾウムシ	—	R
76 ヒゲナガゾウムシ科	チャマダラヒゲナガゾウムシ	—	R
77 ヒゲナガゾウムシ科	シリジロヒゲナガゾウムシ	—	R
78 ヒゲナガゾウムシ科	マダラフトヒゲナガゾウムシ	—	R
79 カ科	トワダオオカ	—	R

●昆虫類

科名	種名	環境省RL	北海道RD
準絶滅危惧(NNT)			
80	ハナアブ科 ジョウザンナガハナアブ	—	R
81	ハナアブ科 フタオビアリスアブ	—	R
82	クロバエ科 マルヤマトリキンバエ	—	R
83	イエバエ科 キイロトゲハナバエ	—	R
84	イエバエ科 クロマルハナバエ	—	R
85	ニクバエ科 ハナバチノスヤドリニクバエ	—	R
86	ニクバエ科 チビクロニクバエ	—	R
87	ニクバエ科 キタシリアカニクバエ	—	R
88	ニクバエ科 シロガネニクバエ	—	R
89	シロチョウ科 ツマキチョウ	—	—
90	タテハチョウ科 アカマダラ	—	—
91	タテハチョウ科 クモガタヒョウモン	—	—
92	ヤママユガ科 オナガミズアオ北海道亜種	NT	—
93	ドクガ科 スグドクガ	NT	—
94	ヤガ科 ミヤマキシタバ	NT	—
95	ヤガ科 キスジウスキヨトウ	VU	—
96	ヒメトビケラ科 カメノコヒメトビケラ	—	R
97	トビケラ科 ヒメアミトビケラ	—	R
98	トビケラ科 ゴマフトビケラ	—	R
99	コンボウハチ科 ウスキモモフトハチ	—	R
100	セダカヤセバチ科 キンケセダカヤセバチ	—	R
101	セイボウ科 オオツヤセイボウ	NT	—
102	ケアシハナバチ科 クロツヤケアシハナバチ	—	R
情報不足(DD)			
103	セミ科 ヒグラシ	—	R
104	ガムシ科 コガムシ	DD	—
105	ハムシ科 クロルリハムシ	—	R
106	キノコバエモドキ科 モイワエソカ	DD	—
107	クサアブ科 ネグロクサアブ	DD	—
108	ヒメバチ科 ミズバチ	DD	—
109	セイボウ科 ミヤマツヤセイボウ	DD	—
110	ドロバチモドキ科 ニッポンアワフキバチ	DD	—
111	ハキリバチ科 フルカワフトハキリバチ	DD	—
留意(N)			
112	ムカシトンボ科 ムカシトンボ	—	N
113	タテハチョウ科 オオムラサキ	NT	R



オナガミズアオ北海道亜種:準絶滅危惧(NNT)



ホテイアツモリ:絶滅危惧IA類(CR)



クシロワチガイソウ:絶滅危惧II類(VU)

●植物

科名	種名	環境省RL	北海道RD
今見られない(EX+EWS)			
1	マメ科 タイツリオウギ	—	R
2	マメ科 モメンヅル	—	R
3	スミレ科 タニマスマレ	EN	Cr
絶滅危惧IA類(CR)			
4	ハナヤスリ科 イブリハナワラビ	CR	Cr
5	メシダ科 キタダケデンド	CR	Vu
6	スミレ科 ジンヨウキスミレ	EN	Vu
7	サクラソウ科 サクラソウモドキ	EN	R
8	ムラサキ科 エゾルリムラサキ	CR	Cr
9	イネ科 フォーリーガヤ	CR	—
10	ラン科 モイワラン	CR	—
11	ラン科 ホテイアツモリ	CR	Cr
絶滅危惧IB類(EN)			
12	ハナヤスリ科 ヒメハナワラビ	VU	—
13	チャセンシダ科 チャセンシダ	—	R
14	メシダ科 ミヤマイワデンド	NT	R
15	ウラボシ科 オオエゾデンド	EN	R
16	ポタン科 ベニバナヤマジャクヤク	VU	En
17	アブラナ科 タカネグンバイ	EN	Vu
18	バラ科 エゾサンザシ	VU	Cr
19	シン科 カイジンドウ	VU	—
20	スイカズラ科 ヒロハガマズミ	EN	R
21	キク科 エゾタンポポ	—	—
22	ユリ科 コウライワニグチソウ	EN	R
23	イネ科 ヤマオオウシノケグサ	EN	Vu
絶滅危惧II類(VU)			
24	イワヒバ科 エゾノヒモカズラ	VU	—
25	ゼンマイ科 ヤシャゼンマイ	—	R
26	メシダ科 イワイヌワラビ	—	—
27	ヒノキ科 ミヤマビャクシン	—	Vu
28	ニレ科 エゾエノキ	—	R
29	タデ科 ヤナギヌカボ	VU	R
30	タデ科 ノダイオウ	VU	—
31	ナデシコ科 タチハコベ	VU	—
32	ナデシコ科 クシロワチガイソウ	VU	Vu
33	ナデシコ科 エゾマンテマ	VU	Vu
34	キンポウゲ科 クロバナハンショウヅル	VU	R
35	キンポウゲ科 チャボカラマツ	VU	—
36	オトギリソウ科 エゾオトギリ	VU	—
37	アブラナ科 モイワナスナ	EN	Vu
38	ベンケイソウ科 カラフトミセバヤ	—	—

●植物

科名	種名	環境省RL	北海道RD
絶滅危惧II類(VU)			
39	ユキノシタ科 エゾノチャルメルソウ	—	R
40	バラ科 ホロムイイチゴ	—	—
41	バラ科 エゾシモツケ	VU	—
42	マメ科 イワオウギ	—	R
43	セリ科 ヌマゼリ	VU	—
44	サクラソウ科 エゾコザクラ	—	R
45	サクラソウ科 クリンソウ	—	Vu
46	サクラソウ科 エゾオオサクラソウ	—	R
47	リンドウ科 ホソバツルリンドウ	VU	—
48	キョウチクトウ科 チョウジソウ	NT	Vu
49	ガガイモ科 スズサイコ	NT	R
50	アカネ科 エゾキヌタソウ	VU	—
51	シソ科 エゾナミキソウ	VU	—
52	シソ科 テイネニガクサ	NT	R
53	ゴマノハグサ科 ミヤマママコナ	—	R
54	ゴマノハグサ科 キクバクワガタ	—	—
55	スイカズラ科 エゾヒョウタンボク	VU	—
56	スイカズラ科 ベニバナヒョウタンボク	VU	—
57	キキョウ科 バアソブ	VU	—
58	キク科 フォーリーアザミ	VU	—
59	ユリ科 コジマエンレイソウ	VU	R
60	イグサ科 セキショウイ	VU	—
61	ウキクサ科 ヒンジモ	VU	En
62	ミクリ科 ヒメミクリ	VU	R
63	カヤツリグサ科 ジョウロウスゲ	VU	R
64	ラン科 キンセイラン	VU	En
65	ラン科 サルメンエビネ	VU	En
66	ラン科 トケンラン	VU	—
67	ラン科 カキラン	—	Vu
68	ラン科 サカネラン	VU	Cr
69	ラン科 タカネトンボ	VU	—
70	ラン科 ヒロハトンボソウ	VU	—
71	ラン科 トキソウ	NT	Vu
準絶滅危惧(NT)			
72	ハナヤスリ科 ヒロハハナヤスリ	—	R
73	コケシノブ科 ヒメハイホラゴケ	—	—
74	ヤナギ科 エゾミヤマヤナギ	NT	R
75	タデ科 エゾノミスタデ	—	Vu
76	タデ科 ナガバノウナギツカミ	NT	—
77	タデ科 サデクサ	—	R
78	キンポウゲ科 イトキンポウゲ	NT	R
79	マツモ科 マツモ	—	R
80	ボタン科 ヤマシャクヤク	NT	R
81	トウダイグサ科 マルミノウルシ	NT	Vu



トケンラン:絶滅危惧II類(VU)

●植物

科名	種名	環境省RL	北海道RD
準絶滅危惧(NT)			
82	スミレ科 オオバタチツボスミレ	NT	—
83	ウリ科 ゴキツル	—	R
84	イチヤクソウ科 オオウメガサソウ	NT	—
85	リンドウ科 ホロムイリンドウ	—	R
86	ハナシノブ科 エゾハナシノブ	VU	R
87	ハマウツボ科 キヨスミウツボ	—	R
88	タヌキモ科 タヌキモ	NT	R
89	キク科 イワヨモギ	VU	—
90	キク科 コモチミミコウモリ	NT	—
91	オモダカ科 アギナシ	NT	—
92	ヒルムシロ科 ホソバヒルムシロ	VU	—
93	ユリ科 クロユリ	—	R
94	ミズアオイ科 ミズアオイ	NT	Vu
95	イグサ科 ミクリゼキショウ	—	—
96	イネ科 ヒメウキガヤ	—	R
97	イネ科 ウキガヤ	—	R
98	イネ科 キタササガヤ	—	R
99	イネ科 ササガヤ	—	R
100	イネ科 ホソバドジョウツナギ	CR	—
101	ミクリ科 タマミクリ	NT	—
102	ミクリ科 ナガエミクリ	NT	—
103	ガマ科 ヒメガマ	—	R
104	カヤツリグサ科 ホソバオゼヌマスゲ	NT	—
105	カヤツリグサ科 アシボンスゲ	NT	—
106	カヤツリグサ科 オオハリスゲ	EN	—
107	カヤツリグサ科 エゾサワスゲ	NT	—
108	ラン科 コイチヨウラン	—	En
109	ラン科 オオフガクズムシソウ	EN	—
110	ラン科 フタバラン	—	R
111	ラン科 アリドオシラン	—	R
112	ラン科 エゾサカネラン	—	Cr
情報不足(DD)			
113	サクラソウ科 ハイハマボス	NT	Vu
留意(N)			
114	ヤマモモ科 ヤチヤナギ	—	—
115	キンポウゲ科 シナノキンバイ	—	—
116	ツツジ科 エゾノツツジ	—	—
117	キキョウ科 サワギキョウ	—	—
118	ユリ科 スズラン	—	—
119	アヤメ科 ノハナショウブ	—	—
120	イネ科 アイヌソモンモ	—	—
121	カヤツリグサ科 ホロムイスゲ	—	—
122	カヤツリグサ科 オオイヌノハナヒゲ	—	—
123	ラン科 ミヤマウズラ	—	—



サルメンエビネ:絶滅危惧II類(VU)